

地域循環共生圏を形成する (脱炭素社会・エネルギーの地産地消・循環型社会・環境教育)

基本的な施策の方向性

令和3年3月、島田市は2050年までに温室効果ガス¹の排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しました。

その実現に向け、再生可能エネルギー²の利活用と省エネルギー推進の両面から取り組みを進めるとともに、市民一人ひとりの環境負荷の低減と地球環境の保全への取り組みを推進していきます。

地域資源を最大限活用しながらエネルギーの自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限発揮される「地域循環共生圏」の形成を目指します。

この柱のみんなできざそう値

	基準値 R2(2020)	目標値 R7(2025)
市民意識調査「地域循環共生圏の形成」における重要度	64.7%	90.0%

施策と内容

1. エネルギーの地産地消を推進します

川根温泉の温泉付随ガス（メタンガス）を利用したコージェネレーションシステム³や、田代環境プラザごみ廃熱式発電⁴などの運用を継続するとともに、地元企業との協働による公共施設における地産エネルギーの導入を進めていきます。

また、2050年に向けてのロードマップ⁵をつくることで、「ゼロカーボンシティ」を実効性あるものとし、エネルギーの地産地消を推進していきます。

主要な取り組みの事例

- 2050年の「ゼロカーボンシティ」の実現に向けたロードマップの策定及びその実施
- 田代環境プラザのごみ廃熱式発電をはじめとした再生可能エネルギーの利活用
- 地元企業との協働による公共施設における地産エネルギー導入の促進

めざそう値

	基準値 R2(2020)	目標値 R7(2025)
市内の再生可能エネルギーの設備容量	61,219kW	90,000kW

用語解説

- 1 【温室効果ガス】地球の気温を高める効果のあるガスのこと。代表的なものに二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロンガス等がある。
- 2 【再生可能エネルギー】太陽光、風力、地熱、太陽熱などが枯渇せず繰り返し利用できるエネルギーのことで、発電に伴い地球温暖化の原因となる温室効果ガスを排出しない特徴がある。
- 3 【コージェネレーションシステム】環境負荷の少ない天然ガス等を燃料に用いて、必要な場所で電気をつくり、同時に発生する廃熱を蒸気・給湯・暖房・冷房などに有効利用するシステムのこと。
- 4 【ごみ廃熱式発電】ごみ焼却施設でごみを焼却する際に発生した廃熱を回収して再利用する発電のこと。
- 5 【ロードマップ】目標達成までの工程のこと。中長期的な目標を管理するもの。





2. 省エネルギーを推進します

市民や事業者が、深刻化する地球温暖化などの環境問題への理解を深め、地球環境保全に向けた取り組みを実践できるよう啓発活動に努めます。また、市として省エネルギーに率先して取り組みます。

主要な取り組みの事例

- 環境基本計画の改定、周知及び進行管理
- 「COOL CHOICE」の周知及び促進
- エコアクション21の認証・登録の継続、啓発
- 公共施設の省エネルギー化の推進
- 住宅用省エネルギー設備の設置支援

めざそう値

	基準値 R2(2020)	目標値 R7(2025)
市内の使用電力量	733,366MWh	700,000MWh以下

3. 資源のリサイクルを推進します

古紙やペットボトルの資源回収やごみの資源化等を通じて、限りある資源を有効活用する意識を高め、資源循環型社会の形成を目指します。

主要な取り組みの事例

- 資源として再利用できる古紙等の回収を行う団体に対する支援
- ごみの再資源化への市民意識の向上
- 「生活用品活用バンク」の利用促進
- 剪定枝や残飯等のたい肥化

めざそう値

	基準値 R2(2020)	目標値 R7(2025)
リサイクル率	17.7%	基準値以上

用語解説

- 6 【「COOL CHOICE」】 CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買い替え」、「サービスの利用」「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す取り組みのこと。
- 7 【エコアクション21】 環境への取り組みを適切に実施し、環境経営のための仕組みを構築、運用、維持するとともに、環境コミュニケーション（環境負荷や環境保全活動等に関する情報を一方的に提供するだけでなく、利害関係者の意見を聞き、討議することにより、互いの理解と納得を深めていくこと）を行っている事業者を、認証し登録する制度のこと

4. ごみの減量を推進します

環境への負荷を可能な限り軽減するため、ごみの発生を抑制する取り組みを推進するとともに、田代環境プラザの適切な維持管理により安定したごみ処理を行います。

主要な取り組みの事例

- ごみの発生を抑制するマイグッツ運動の推進
- 生ごみ処理容器キエーロ⁸の普及啓発や各家庭での水切りの周知徹底
- 田代環境プラザの長寿命化と適正な運営、維持管理

めざそう値

	基準値 R2(2020)	目標値 R7(2025)
一人1日当たりごみ排出量	871g/人・日	821g/人・日以下

5. 環境教育・学習を推進します

人と環境にやさしい持続可能な社会の実現のため、環境教育・学習の機会を提供し、市民全体で環境問題を考えていきます。特に、未来を担う子どもが環境問題を自分ごととして意識できるようにするため、子どもへの環境教育に力を入れていきます。

主要な取り組みの事例

- 子どもをリーダーとする「アース・キッズ事業⁹」の実施
- 出前講座等を通じた環境保全に対する市民一人ひとりの意識向上
- 田代環境プラザにおける施設見学の受け入れ
- 「SDGs」の周知による環境問題への関心の喚起

めざそう値

	基準値 R2(2020)	目標値 R7(2025)
アース・キッズ事業など環境学習への参加者数 (H18年度からの累計)	27,604人	34,000人

用語解説

- 8 【生ごみ処理容器キエーロ】黒土に含まれる微生物により、生ごみ自体を消滅させる生ごみ処理容器のこと。
 9 【アース・キッズ事業】子どもたちがリーダーとなって、ワークブックを使った家庭での取り組みや学校での体験学習等を通じて地球温暖化について学び自分たちにできることを考え実践する事業のこと。



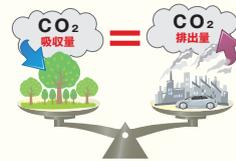
島田市「ゼロカーボンシティ」表明

○背景

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界規模で、自然災害が頻発、激甚化し、人類だけでなく、すべての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われる深刻な事態となっています。

○ゼロカーボンシティ表明

令和3年3月、島田市はかけがえのない私たちの故郷を未来の世代につないでいくため、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指し、市民や事業者等と一体となって取り組むことを表明しました。

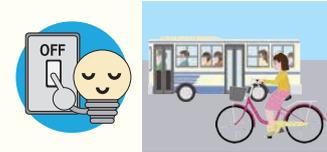


○脱炭素型ライフスタイル

市民の暮らしに関連して排出される温室効果ガスは全体の6割を占めており、脱炭素型社会の実現に向けては、一人ひとりの暮らしの脱炭素化も重要です。



CO₂削減効果の大きい「住宅ゼロエネルギー化」や「マイカーのEV化」、身近にできる「こまめな照明の消灯」や「公共交通、自転車、徒歩などCO₂排出量の少ない移動」、「設定温度を抑えたエアコンの使用」など、次の世代に向けて、脱炭素型ライフスタイルの取り組みを進めてみませんか。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

みんなでやってみよう！SDGs #4

「ごみの量を減らそう」

主なSDGs

12 つくる責任
つかう責任



私たちは、1人1日あたり約1キロのごみを出しています。ごみの発生を抑制するだけでも、地球環境を保全することができます。

毎日捨てるごみの中には、資源に変わるものが含まれています。例えば、お菓子の空き箱やお店でもらうチラシなども立派な資源になります。ごみをごみ箱に捨てる前に、資源になるかをもう一度確認し、積極的に資源回収に努めましょう。

また、美味しいご飯も食べ残してしまえばごみになってしまいます。レストランでご飯を食べるとき「本当に食べきれるかな」と考えてから注文しましょう。

その他にも、不用品のリサイクルや生ごみの水切りなど、家庭で簡単にできるごみの削減方法はたくさんあります。一人ひとりの意識で少しずつ、ごみの削減を実践していきましょう！